

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01317

研究課題名(和文) ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして

研究課題名(英文) Muslim Discourses Surrounding the Prophet Muhammad's Kinfolk

研究代表者

森本 一夫 (MORIMOTO, Kazuo)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00282707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：イスラーム教の創始者ムハンマドに連なる血統とその血統を帯びるとされる人々がさまざまな環境に暮らすムスリムによってどのように論じられてきたかを探究した。国内外の11名のメンバーが、定例研究会や現地合同調査により知見を共有しながら事例研究を行った。成果発表は国際的な研究集会でのパネル組織やシンポジウム開催、雑誌特集号の刊行などを通じて行った。さまざまな時代・地域に関する事例研究を展開することができたのみならず、スンナ派・シーア派間での異同や女性の扱いの問題など、時代・地域をこえた論点について考察を進めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ムハンマドの一族を称す人々はイスラーム史のさまざまな場面に登場し、また現在もムスリム諸社会に広く見られる。よって、彼らに対する洞察を深めることは、過去と現在のイスラーム教やムスリム諸社会の理解の深化に資することが期待される。しかし、多様な姿を見せる彼らをムハンマド一族という共通の属性に即して捉え、彼らの立場や役割、彼らの血統が持つとされてきた意味を解明しようとする動きは世界的に見てもようやく緒についたところである。本研究は、このような新たな動向のなかでの独自の試みと位置づけられる。

研究成果の概要(英文)：This research investigated how the lineage of the Prophet Muhammad and the people associated with that lineage have been discussed by Muslims living in various environments. A team of eleven members from within and without Japan conducted case studies while sharing their insights through regular research meetings and a collaborative field survey. The research outcomes were disseminated through a panel at an online international event, an online symposium, and a journal special issue, among others. The project not only conducted case studies covering different periods and regions but also advanced the understanding of issues that go beyond temporal and regional boundaries, including the variations in discourse between the Sunnis and the Shia and the treatment of women.

研究分野：イスラーム史、イスラーム研究

キーワード：イスラーム教 イスラーム史 ムスリム ムハンマド一族 血統 宗派 サイド

### 1. 研究開始当初の背景

ムハンマドに連なる血統を主張する人々(以下、ムハンマド一族)の広範な分布や彼らに対する特別視の広がり、また彼らがイスラーム史上のさまざまな局面で表舞台に登場してきたことは、イスラーム史研究者・イスラーム研究者には古くから認識されていた。しかし、ムハンマド一族のムスリム諸社会における地位や役割という問題を独立した一つの研究主題とみなす動向は、世界的に見ても20世紀末まで存在しなかった。

21世紀に入り、ムハンマド一族を正面から扱う研究は世界的に増加してきたが、それらの多くはムハンマド一族が何をしてきたか、あるいはどう扱われてきたかを扱うものであった。それに対し、ムハンマド一族はどう論じられてきたか、彼らは周囲の人々・本人たちによって何であると考えられてきたかという問題の研究は立ち後れていた。これは、血統への特別な意義づけによって他の人々と区別されるムハンマド一族のような人々を研究する際、大いに問題のある状況であった。

このような状況を踏まえ、イスラーム教の「聖なる人々」に対する関心を共有し、これまでもさまざまな形で協働してきたイスラーム史研究者・イスラーム研究者が集まって組織したのが本研究であった。

### 2. 研究の目的

本研究の実施に当たっては、さまざまな環境に暮らすムスリムがムハンマド一族の地位と役割に関して生みだしてきた言説(以下ムハンマド一族言説)の解明を最大の目的とした。その際、ムハンマド一族言説が時代的・地域的偏差や宗教的傾向に応じた差違を内包するものであることに鑑み、個別の「場」に関する事例研究を実施し、世界的に見ても不十分なそうした研究の蓄積に資することを第一の目標とした。同時に、そうして本研究の枠内で行われる事例研究を踏まえた、本研究の達成を示す総合的な知見を呈示することを第二の目標に定めた。

本研究はまた、ムハンマド一族という未確立の主題がイスラーム史研究・イスラーム研究一般に資するものであることを示すことをも目的とした。そのため、事例研究のレベルにおいてはムハンマド一族言説の解明からさらに一歩進み「場」それ自体の理解に貢献することを、総合的な知見の呈示に当たってはイスラーム史・イスラーム教理解の刷新に資する視点を呈示することを、それぞれ目指すものとした。

### 3. 研究の方法

本研究の基礎となったのは、地域・時代・宗派や思想潮流・社会構造などを考慮して設定されるさまざまな「場」において多様な立場のムスリムが展開してきたムハンマド一族言説を、その社会的契機に十分に注意を払いながら解明しようとする11本の事例研究であった。研究代表者、研究分担者(2名)、研究協力者(8名)が、それぞれの専門を活かしながら事例研究を実施した。事例研究が扱った「場」は、時代的には10世紀から21世紀、地域的には西はモロッコから東はインドネシアにまたがる。

#### 事例研究を実施した「場」

- ・10～11世紀に活動したシーア派(十二イマーム派)の宗教知識人たちのコミュニティ
- ・10～14世紀に活動したスンナ派ハディース学者たちのコミュニティ
- ・12～14世紀に宗派の枠をこえて交流を深めたスンナ派とシーア派(十二イマーム派)の宗教知識人たち
- ・13～15世紀北インドのスンナ派宗教知識人のコミュニティ
- ・近世中国の漢人ムスリム社会
- ・近代のフェルガナ盆地を中心とする中央アジアのムスリム社会
- ・十二イマーム派「国教化」後の近世イラン
- ・現代の東南アジア島嶼部のムスリム諸社会
- ・イラン・イスラーム共和国体制下のイラン社会
- ・現代南アジアのムスリムたちが構成する政治的言説空間
- ・現代モロッコの政治的言説空間

事例研究は、各メンバーの専門分野の特性に応じつつ、大きく文献研究(手稿本研究を含む)とフィールドワークの両方(および両者の組み合わせ)を通じて行われる予定であった。しかし、新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、ほぼ全面的に文献研究に依拠することを余儀なくされた。

メンバーが個別に実施する事例研究が、その素材の相違にかかわらず問題意識や具体的な問いを共有したものとなるようにすることは、本研究の実施にとって極めて重要であった。そのため年度に2～3回の研究会を開催し、そのプログラムには、研究発表だけでなく、研究資料の

共同での検討、ムハンマド一族に属す宗教知識人による講演といった内容を盛り込んだ。同様の目的で現地合同調査も実施した（2022年8月ウズベキスタン調査；コロナ禍により回数・時期は予定通りにはいかなかった）。

#### 4. 研究成果

個々のメンバーによる11本の事例研究を柱とする本研究の成果の公開は、主として以下の方法で行った：

(1) The Association for the Study of Persianate Societies (ASPS) Virtual Event Series II: Two-Panel Event での、パネル“Arguing the Place of the Prophet’s Family in the Persianate World”の組織（2020年12月22日；オンライン開催；組織者：二宮文子；司会：Louise Marlow；発表者：水上遼、河原弥生、二宮文子、Julien Levesque）。

(2) シンポジウム「ムハンマドの血筋とムスリム：預言者一族をめぐる多様な語りと語り手たち」の開催（2021年9月18日；オンライン開催；協賛：科研費基盤研究A「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（代表：赤堀雅幸）および Japan Office, Association for the Study of Persianate Societies；発表：新井和広、森本一夫、中西竜也、河原弥生、白谷望、森山央朗、二宮文子、吉田京子、杉山隆一、水上遼）。

(3) 『東洋文化』の特集号「『ムハンマドの血筋』とムスリム アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」の刊行（『東洋文化』（東京大学東洋文化研究所発行）103号、2023年3月刊行、252頁；寄稿者はシンポジウムの発表者と同一；東京大学学術リポジトリで公開）。

加えて、日本語での発表・論文執筆が不可能な研究協力者 Julien Levesque の研究成果発表を2度の講演会（“Caste and Islam in South Asia: A Genealogy of Contemporary Debates”（2022年11月5日開催）と“Anjuman, Jami‘at, or Association: What Sayyid Organizations Tell Us about the Associational Life of Muslim Caste Groups”（2022年11月11日開催）；ともに東文研セミナーとして東京大学東洋文化研究所を会場としてハイブリッドで開催）により行った。また、各々のメンバーは、11本の事例研究に加え、本研究によって得られた知見を活用した付随的な研究を展開したが、その成果も口頭発表・刊行物などの形で個別に公表されている。

なお、本研究主催の関連行事として、Ali Hasan Al Bahar 氏による講演会「インドネシアにおけるサイドの役割：フセイン・アイダルース（1756年没）から現在まで」（2019年7月6日開催；東文研セミナー；会場：東京大学東洋文化研究所；通訳：新井和広）を開催した。

ムハンマド一族を主題とする研究の現状に鑑みると、ムハンマド一族言説を主題とし、共通の問題意識により作成された10本の論文を一書に集めた学術雑誌特集号を刊行したことが、すでに本研究の重要な成果であると言える。10本の事例研究は、さらに、シーア派（十二イマーム派）の間での12人のイマーム以外のムハンマド一族に関する言説、中世インドのスナ派の間でのムハンマド一族言説、スナ派の宗教学者にとってアリー崇敬がもつ宗派的含意、マフディー論を通じて見たムハンマド一族を崇敬するスナ派宗教学者たちの宗派意識、中国ムスリムにとってのムハンマド一族の血統の意味といった、世界的に見てもこれまでに類例がない主題を扱うものを含んでいる。

事例研究を踏まえ総合的な知見を呈示するという目標に照らした際の本研究の特記すべき成果としては、ムハンマド一族言説に関し、これまではその超宗派性が強調されるに留まっていたのに対し、スナ派とシーア派（十二イマーム派）の間に見られる言説上の共通点と相違点を具体的に示したことが挙げられる。そのような進展は、マフディー（救世主）論とイマーム崇敬が宗派性とどう交わるかに関わるスナ派側の言説とシーア派側でのイマーム以外のムハンマド一族の位置づけに関する言説を同時に扱ったことなどから得られた。ムハンマド一族言説のなかでの女性の位置づけに関する知見を複数の事例にもとづいて提出できたことも本研究の重要な成果であった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 32件）

1. 著者名 森本一夫	4. 巻 103
2. 論文標題 現代イランの大衆向けサイド論：パーゲリヤーン・モヴァッヘッド著『サイドの奇蹟』をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化（特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」）	6. 最初と最後の頁 31-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002007485	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新井和広	4. 巻 103
2. 論文標題 現代インドネシアにおける預言者一族の位置づけ：アブドゥッラー・ビン・ヌーフほかの論考から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化（特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」）	6. 最初と最後の頁 74-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002007487	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河原弥生	4. 巻 103
2. 論文標題 19世紀フェルガナ盆地におけるミールザーたちの系譜書：コーカンド・ハーンの母方の系譜として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化（特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」）	6. 最初と最後の頁 205-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002007492	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白谷望	4. 巻 103
2. 論文標題 現代モロッコにおける女性王族の婚姻、血統及び社会的地位	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化（特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」）	6. 最初と最後の頁 229-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002007493	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 103
2. 論文標題 サファヴィー朝末期作成のイマーム・レザーの奇蹟譚集『天国への手段』をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化 (特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」)	6. 最初と最後の頁 107-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002007488	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西竜也	4. 巻 103
2. 論文標題 「聖」なる贖典赤とムスリム・アイデンティティ：清代中国の預言者一族の対外生存戦略と内的緊張関係	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化 (特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」)	6. 最初と最後の頁 183-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002007491	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二宮文子	4. 巻 103
2. 論文標題 ダウラターバーディー作『サイドの美德』に見える15世紀北インドのサイド論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化 (特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」)	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002007486	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryo Mizukami	4. 巻 58
2. 論文標題 Interconfessional Dialogue on Fada'il of the Twelve Imams: Rethinking the Confessional Boundary between Sunnism and Shi'ism in Medieval and Early Modern Islam	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 171-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水上遼	4. 巻 103
2. 論文標題 スンナ派の十二イマーム崇敬とマフディー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化 (特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」)	6. 最初と最後の頁 157-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002007490	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森山央朗	4. 巻 103
2. 論文標題 スンナ派伝承主義者にとってのアリー崇敬：ニーシャープールのハーキム (1014年没) が「シーア派的」と批判された理由と文脈	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化 (特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」)	6. 最初と最後の頁 133-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002007489	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田京子	4. 巻 103
2. 論文標題 十二イマーム・シーア派イマーム論におけるアリー裔：アブドゥルアズィーム・ハサニーの事例を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化 (特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」)	6. 最初と最後の頁 11-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002007484	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Julien Levesque	4. 巻 Apr
2. 論文標題 Does Caste Play a Political Role among Muslims in India?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 GIS Asie, Articles of the Month	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Morimoto	4. 巻 30
2. 論文標題 Sayyid-ness beyond the Borders of South Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Royal Asiatic Society	6. 最初と最後の頁 505-511
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S135618632000036X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井和広	4. 巻 35
2. 論文標題 サイドの特権を保証する権威とは何か：1931年にバタヴィアで出版された『真実の説明』を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学 (慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会)	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Laurence Gautier, Julien Levesque	4. 巻 30
2. 論文標題 Introduction: Historicizing Sayyid-ness: Social Status and Muslim Identity in South Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Royal Asiatic Society	6. 最初と最後の頁 383-393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1356186320000139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水上 遼	4. 巻 91
2. 論文標題 イルピリー著『悲嘆の除去』におけるスンナ派文献の戦略的引用：超宗派的信仰として描かれる十二イマーム崇敬	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/seinan-asia-kenkyu_91_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 178
2. 論文標題 アフシャール朝期のイマーム・レザー廟：『アリー・シャーの巻物』から見る18世紀イランにおけるイマーム廟の運営と組織(II)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 436-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002003225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 177
2. 論文標題 アフシャール朝期のイマーム・レザー廟：『アリー・シャーの巻物』から見る一八世紀イランにおけるイマーム廟の運営と組織( )	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 139-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水上遼	4. 巻 99
2. 論文標題 13-14世紀におけるスンナ派の十二イマーム崇敬とヒッラのシーア派学者集団：サドルッディーン・ハンムーイー著『二本紐の首飾りの真珠』に見られる宗派を越えた伝承教授	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 5-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94172	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田京子	4. 巻 92
2. 論文標題 シャイフ・サドゥークの『講義録 al-Amali』におけるファーティマ伝承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イスラム世界	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計64件（うち招待講演 46件 / うち国際学会 38件）

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Three Updates on Ibn ‘Inaba and His Oeuvre
3. 学会等名 Giornate di studio in memoria di Biancamaria Scarcia Amoretti. Sciismo e minoranze nel mondo musulmano in epoca classica, Università di Catania, Dipartimento di Scienze Umanistiche (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuhiro Arai
2. 発表標題 The Role of Islam in the History of West Java: From a Biography of Sunan Gunung Jati
3. 学会等名 International Symposium/Open Meeting: “Transformation of Religions Reflected in Javanese and Other Texts from Southeast Asia,” Tokyo University of Foreign Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuhiro Arai
2. 発表標題 Different Migration Patterns of the Hadrami sada from a Comparison of the al-‘Aydarus and the al-Habshi Families
3. 学会等名 INDOWS International Symposium “Discovering the Indian Ocean World: “Gyres”, Indian Ocean and beyond,” National Museum of Ethnology (Osaka) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Julien Levesque
2. 発表標題 Anjuman, Jami‘at, or Association: What Sayyid Organizations Tell Us about the Associational Life of Muslim Caste Groups
3. 学会等名 Tobunken Seminar, The University of Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Julien Levesque
2. 発表標題 Caste and Islam in South Asia: A Genealogy of Contemporary Debates
3. 学会等名 Tobunken Seminar, The University of Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Julien Levesque, Soheb Niazi
2. 発表標題 Associations, Ashrafization, and Group-Based Experiences of Politics: Re-Investigating the Debate on Muslim Caste in South Asia
3. 学会等名 British Association for South Asian Studies (BASAS) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新井和広
2. 発表標題 東南アジアのイスラーム化に関するアラブ系の認識：アラウィー・ビン・ターヒル・アル=ハッダードほかの説から
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「ジャワ語及び東南アジア諸語テキストにみる宗教変容：イスラーム化過程における国家の戦略と役割」2021年度第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yayoi Kawahara
2. 発表標題 Creating Nasab-Nama Documents: On the New Historical Sources from the Territory of the Khanate of Khoqand
3. 学会等名 International Conference on Sustainable Tourism, Pilgrimage, and Sacred Heritage: the People Protecting Monuments - The Legacy of Ahmad Yasawi (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nozomi Shiratani
2. 発表標題 Female Members of the Royal Family in Modern Morocco: Private or Public Royals?
3. 学会等名 タシケント国立東洋学大学主催国際会議『比較類型論研究のプリズムを通して、異なる文化、民族性、言語の相互理解』（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Ibrahim b. Yahya “ Ibn B-L-L-W-H ” : A Najafi Genealogist in Thirteenth-Century Cairo
3. 学会等名 Exeter-Tokyo Workshop: Inscribing Knowledge and Power in Islamic Societies: A Diachronic Study (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuhiro Arai
2. 発表標題 Sejarah keturunan Arab di Indonesia
3. 学会等名 Yaumul 'Arabiyyah (Jamiat Kheir: Jakarta) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yayoi Kawahara
2. 発表標題 Nasab-namas of Sayyids in the Ferghana Valley during the Period of the Khanate of Khoqand
3. 学会等名 ASPS Virtual Event Series II: Two-Panel Event (Panel 1: Arguing the Place of the Prophet 's Family in the Persianate World) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yayoi Kawahara
2. 発表標題 Nasab-nama and Tariqa in the 19th Century Ferghana Valley
3. 学会等名 Genealogical History in the Persianate World: An International Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Julien Levesque
2. 発表標題 Conceptions of Social Hierarchy and Community Solidarity in Two South Asian "Sayyid Associations."
3. 学会等名 ASPS Virtual Event Series II, Two-Panel Event (Panel 1: Arguing the Place of the Prophet's Family in the Persianate World) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Julien Levesque
2. 発表標題 Caste among Non-Hindus: Finding Creative Ways to Move beyond Conceptual and Methodological Roadblocks
3. 学会等名 Valedictory Address at the International Conference Caste among Non-Hindus (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryo Mizukami
2. 発表標題 The Hilli Shi'is Reacting to Imamophilia among Sunnis: A Study of Sadr al-Din al-Hammuyi's (d. 1322) Fara'id al-Simtayn
3. 学会等名 ASPS Virtual Event Series II: Two-Panel Event (Panel 1: Arguing the Place of the Prophet's Family in the Persianate World) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Ryo Mizukami
2 . 発表標題 Trans-Sectarian Dialog on the Twelve Imams: Rethinking the Confessional Boundary between Sunnism and Shi'ism in Medieval Islam
3 . 学会等名 Knowledge on the Move: Connectivities, Frontiers, and Translation in Asia (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Ryo Mizukami
2 . 発表標題 Writing the Imams' Virtues under al-Nasir's Interconfessional Policy: Ibn al-Bitriq and his Fada'il Works
3 . 学会等名 Exeter-Tokyo Workshop: Inscribing Knowledge and Power in Islamic Societies: A Diachronic Study (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Ayako Ninomiya
2 . 発表標題 Discussing Sayyids in the Indian Regional Context: Shihab al-Din al-Dawlatabadi's (d. 1445) Manaqib al-Sadat
3 . 学会等名 ASPS Virtual Event Series II: Two-Panel Event (Panel 1: Arguing the Place of the Prophet's Family in the Persianate World) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Ryuichi Sugiyama
2 . 発表標題 Tarikh-e Astan-e Qods-e Razavi az Manzar-e Yek Mohaqeq-e Zhaponi
3 . 学会等名 Selsele-ye neshast'ha-ye zhapon-shenashi-ye doshanbe'ha-ye akhar-e mah, neshast-e bistom, Daneshkade-ye Motale'at-e Jahan, Daneshgah-e Tehran (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 An Eventful Life of a Medieval Talibid Genealogy: Al-Asili Metamorphosing into the Ghayat al-ikhtisar
3. 学会等名 All-Japan-Exeter Joint Workshop / Tobunken Symposium "Knowledge as Power: Production, Control, and Manipulation of Knowledge in Muslim Societies" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Why Have the Descendants of the Prophet Muhammad Migrated So Widely?
3. 学会等名 Ito International Research Center Symposium "Crossing Boundaries: Migration, Mediation, Morality (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Mushajjars: Multi-Folio Genealogical Charts of the Prophet Muhammad's Kinfolk
3. 学会等名 Genealogical Manuscripts: A Cross-Cultural Perspective (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Expert Opinion and Public Opinion: How Was a Noble Genealogy Be Established in Medieval Muslim Societies?
3. 学会等名 Invited lecture at the Departement des Sciences de l'Antiquite, Liege University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二宮文子
2. 発表標題 ムハンマド崇敬：イスラームにおける聖なるものの諸相
3. 学会等名 総合研究所・人文科学研究所 共催シンポジウム「東西の聖なるもの」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 大黒俊二・林佳世子 責任編集（森本一夫、森山央朗執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 303
3. 書名 西アジアとヨーロッパの形成 8-10世紀（岩波講座世界歴史第8巻）（うち執筆分「山々に守られた辺境の解放区：カスピ海南岸地域のアリー裔政権（864-930/31年）」147-178頁；「ウラマーの出現とイスラーム諸学の成立」111-147頁）	

1. 著者名 森本一夫 責任編集（新井和広、河原弥生、白谷望、杉山隆一、中西竜也、二宮文子、水上遼、森本一夫、森山央朗、吉田京子執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 252
3. 書名 東洋文化103号（特集「『ムハンマドの血筋』とムスリム：アリー一族をめぐる多様な語りと語り手たち」）（執筆箇所は雑誌論文欄に記入）	

1. 著者名 森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真 編（森本一夫、吉田京子執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 678
3. 書名 イスラームの内と外から：鎌田繁先生古稀記念論文集（うち執筆分「はじめに」「覚え詩作りに興じるマムルーク朝期のウラマー：ムハンマドに似た人を探せ」「あとがき」1-4、482-501、660-662頁；「十二イマーム・シーア派参詣（ズィヤーラ）論におけるイマーム親族」367-381頁）	

1. 著者名 弘末雅士 責任編集（二宮文子執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 342
3. 書名 南アジアと東南アジア：～15世紀（岩波講座世界歴史第4巻）（うち執筆分「南アジアにおけるイスラームの展開」149-170頁）	

1. 著者名 イスラーム文化事典編集委員会 編（新井和広、河原弥生、杉山隆一、二宮文子、水上遼、森本一夫、森山中央朗執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 714
3. 書名 イスラーム文化事典（うち執筆分「タリーカ、聖者崇拜（東南アジア）」「預言者生誕祭（東南アジア）」56-57、584-585頁；「宗教施設、建築（中央アジア）」540-541頁；「タリーカ、聖者崇敬（イラン）」308-309頁；「タリーカ（南アジア）」588-589頁；「偉人伝（イラン）」308-309頁；「ハディース」「預言者伝（アラブ）」7-8頁、312-313頁；「12イマーム派の預言者伝（イラン）」21-22頁）	

1. 著者名 Julien Levesque	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Presses Universitaires de Rennes (Rennes)	5. 総ページ数 315
3. 書名 Pour une autre idee du Pakistan: Nationalisme et construction identitaire dans le Sindh	

1. 著者名 鈴木重、近藤二郎、赤堀雅幸（編集代表）、岡田保良、鎌田繁、長沢栄治、永田雄三、西尾哲夫、深見奈緒子、保坂修司、榎屋友子、水野信男、森本一夫（編集委員）（森本一夫、森山中央朗、吉田京子執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 中東・オリエント文化事典（うち執筆分「ペルシア語とイラン人」「預言者一族の血統」「イスラーム期（前近代）の図書館」114-117、194-195、640-641頁；「イスラームの宗教諸学と宗教知識人」632-633頁；「12イマーム派」176-177頁）	



1. 著者名 佐野東生（編）、佐野東生、野元晋、吉田京子、山口元樹、平野貴大、水上遼、村山木乃実（訳・解説）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 龍谷大学国際社会文化研究所	5. 総ページ数 41
3. 書名 カースィアの説教：悪魔にいかに対処するか カリフ・アリーの『雄弁の道』Nahj al-Balaghahより	

1. 著者名 西尾哲夫、東長靖（編）（新井和広執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中東・イスラーム世界への30の扉（うち執筆分「聖なる血筋の効力：インドネシアの預言者一族」86-95頁）	5. 総ページ数 378
3. 書名 ミネルヴァ書房	

1. 著者名 鈴木董（編）（杉山隆一執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 372
3. 書名 侠の歴史 西洋編 上 + 中東編（うち執筆分「フサイン：「正義」を貫いたシーア派イマームと信徒が語り継いだその記憶」230-245頁）	

1. 著者名 Kazuo Morimoto, Osamu Otsuka, Evrim Binbas, Satoshi Ogura, Nobuaki Kondo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 113
3. 書名 "Kingship and Political Legitimacy in the Persianate World," symposium (special issue), Journal of Persianate Studies 12-1	

1. 著者名 水上遼	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 64
3. 書名 語り合うスンナ派とシーア派：十二イマーム崇敬から中世イスラーム史を再考する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新井 和広  (ARAI Kazuhiro)  (60397007)	慶應義塾大学・商学部(日吉)・教授   (32612)	
研究分担者	河原 弥生  (KAWAHARA Yayoi)  (90533951)	東京大学・附属図書館・准教授   (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	白谷 望  (SHIRATANI Nozomi)	愛知県立大学・外国語学部・准教授   (23901)	
研究協力者	杉山 隆一  (SUGIYAMA Ryuichi)	京都橘大学・文学部・准教授   (34309)	2019-2021年度、本研究の雇用により、東京大学東洋文化研究所特任研究員として勤務
研究協力者	中西 竜也  (NAKANISHI Tatsuya)	京都大学・人文科学研究所・准教授   (14301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	二宮 文子  (NINOMIYA Ayako)	青山学院大学・文学部・教授  (32601)	
研究協力者	水上 遼  (MIZUKAMI Ryo)	東京大学・東洋文化研究所・特任研究員  (12601)	2021-2022年度、本研究の雇用により東京大学東洋文化研究所特任研究員として勤務
研究協力者	森山 央朗  (MORIYAMA Teruaki)	同志社大学・神学部・教授  (34310)	
研究協力者	吉田 京子  (YOSHIDA Kyoko)	神田外語大学・グローバル・リベラルアーツ学部・准教授	
研究協力者	ルヴェスク ジュリアン  (LEVESQUE Julien)	チューリヒ大学・Asien-Orient-Institut・研究員	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関